

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(農業公社支援)
小田 良和

Q 最近の仕事の様子を教えてください。

A 着任から1年が過ぎ、農業公社の動きがわかってきました。最近では農業公社のホームページで新規就農希望の研修生の様子をブログ形式で投稿するほか、高知県の新規就農相談センターのホームページでも投稿をしています。また、今年の4月ごろから農業公社のInstagram、Twitterも本格始動して、研修生の様子やキュウリの栽培の様子を日々発信しています。7月下旬には東京で行われた農業のフェアに参加し、15組の方々とキュウリ栽培の年間サイクルについてや、移住者から見た黒潮町の話などをしました。11月の下旬にも大阪で開催されるフェアに参加するので、1組でも黒潮町を見に来てくれる人がいれば良いと思います。あとは、キュウリの栽培をしているところなどを撮影して、研修生やキュウリの生育の様子をさらにわかりやすく伝えることができる動画を作りたいです。私も農業を知らずに黒潮町に来て、「そうなんだ」という発見があったので、動画を作る際にはそういうところも見せたいと思います。

Q 黒潮町に来る前と今とではどのような変化がありましたか？

A 来たばかりのころに比べたら行動範囲も増えて、どこかに出かけて黒潮町に戻る時に「帰って来た」と感じるようになり、やっと町に居るのが当たり前になってきました。あと大きな変化と言えば、野菜の消費量が増えたことですね。野菜が新鮮で瑞々しいし美味しくて、地元で採れた時と比べると食生活はすごく変わったと感じます。今年は日取りと天気が合わずマリンスポーツができなかったのも、来年こそはマリンスポーツをやりたいです。



定植したキュウリ

協力隊から一言！

住めば住むほどこの町が好きになっていくので、移住とセットで農業をしたいという方のサポートをしていきたいです。

Kramer's Corner クレーマのコーナー



今月のテーマ

サンクスギビング

先月の24日にアメリカ全国の人々が実家に帰り、家族や友達と一緒に大きな祝宴を楽しみました。なぜかと言うと、アメリカでは毎年11月の第4木曜日がサンクスギビングだからです。サンクスギビングは、直訳すると「感謝すること」という意味があり、日本語で感謝祭とも呼ばれ、歴史が長い祝日です。初めてのサンクスギビングは、1621年にピルグリムという移住民が最初の収穫を記念するために行った祝いだと言われています。ピルグリムはイギリスから海を渡り、1620年に現在のアメリカのマサチューセッツ州に到着し、植民地を作りました。しかし、その年の冬は大変厳しく、大勢のピルグリムが亡くなりました。ピルグリムは全滅寸前でしたが、翌年近くに住んでいた先住民のアメリカインディアンに助けられ、トウモロコシなどの新大陸の作物の栽培の仕方を教わり、幸い生き残れました。1621年の秋、収穫が非常に良かったため、ピルグリムとアメリカインディアンが神様の恵みに感謝する祝宴を開きました。それは初めてのサンクスギビングだったそうです。

現代のサンクスギビングは、食べ物や家族などの恵みに感謝しながら親戚や友人が集まる大きな食事会です。マッシュポテトやパンプキンパイなどのいろいろな伝統的な料理がありますが、メインは七面鳥の丸焼きです。焼き肉のたれみたいなグレイビーソースと一緒に食べ、とても美味しいです。それに加え、大きなパレードやアメリカンフットボールの試合もあり、サンクスギビングは楽しく愛されている日です。

今月の使える！英語

There's no place like home for the holidays.
ホリデー(祝日)には我が家が一番だ。

サンクスギビングやクリスマスなどの祝日にはアメリカ人にとって家族と一緒に家で過ごすべきだから、この時期によく使われることわざです。



クレーマの親戚と七面鳥の丸焼き